

政策目標2 良好な生活環境が保全されているまち

施策⑦公害防止対策の推進（p26）

【評価できる点】

- ・工場・事業場定期立入調査件数や、目標値よりも多く実施されている点。
- ・「空気のきれいさ」や「土壌の汚れ」に対する満足度が目標値よりも高く推移している点。
- ・法令、条例に基づく審査および工場などへの立入検査を継続的に実施することで、遵守されている。
- ・令和7年度の工場・事業場定期立入調査件数が67件と多く、積極的に実施されていると感じる。
- ・発生源となる企業への立入調査などを定期的に開催し、再発防止に努めている。
- ・水質測定物品の貸与を通じて市民への普及啓発をはかった。

【今後検討すべき課題】

- ・以前にも指摘したが、空気の「きれいさ」と土壌の「汚れ」が、意味が逆であるのに同じ「満足度」で測定しているところがわかりにくいので、適切なタイミングでの改善が必要である。
- ・「課題」のところで、工場等への指導について「より実効性を高める運用が求められています」とあるが、具体的にどのような対応を検討しているのか、言及があるとよい。
- ・実施した立入調査の具体的な内容、数値などは、市環境保全課が発行している「茅ヶ崎の環境」で、分かるようになっているが、参照するページなどが年次報告書にも記載されているとより分かりやすい。せっかくやっても分かりづらい。より市民に伝わりやすいものになると良いと思う。
- ・引き続き、定期的な立入調査を実施することが、公害防止に効果がある。
- ・今後も市民への水質測定物品の貸与事業を継続し、普及啓発をおこなってほしい。
- ・市民ニーズの把握が今後どのように生かされていくのか、ニーズに対する回答を広く市民に知らせることが課題。

施策⑧健全な水循環の維持（p28）

【評価できる点】

- ・地下水水質常時監視結果について、基準超過がなかった点。
- ・継続的な水質監視を実施し、良好な水環境が維持されている。
- ・河川の水環境維持に努めてきたこと。
- ・水環境に関する啓蒙活動とし、各イベント出展や柳島水再生センターの見学などを通し、市民に広く知らせている。
- ・未整備地域の位置情報を地図システムにより可視化し業務の迅速化をはかった。
- ・甘沼自治会館横の用水路に地区の雨水がいきなり集まってきてしまう事がしばしばあり、以前と環境が変わって線状降水帯が多く発生することもあり溢れてしまう。構造上どうにかできる問題ではないが、今年は担当課に連絡すると早めの除草をやっていただけて、非常に感謝している。雑草がのびたまま雨が降ると暗渠（あんきょ）に入って、つまった状態になってしまう。引き続き行って欲しい。また、他の地区でも6月前から定期的に用水路の掃除が行われており、対応が行き届いていると感じた。

【今後検討すべき課題】

- ・雨水くんを鶴が台団地でいくつかみたが、他の地域でももっと活用できるよう啓発活動や補助金などがあると良い。今現在は、他の地区ではあまりみないが利用はされているのか。
- ・継続して普及啓発をおこない、水質保全意識の向上をはかってほしい。
- ・農業水などが、水資源の河川に合流しないように努めること。
- ・生活排水処理率について、高額な工事費の負担などの事情を踏まえると、制度周知や PR では限界があるのではないか。
- ・水洗化の推進、下水道の整備をさらに進めていくのが課題。
- ・新千ノ川橋と 45 号線が交わる所の河の河川のごみが非常に目立つ。注意の看板の設置や定期的な清掃も必要かと思う。また、捨てにくい環境にしていく必要もある。

施策⑨地域での生活環境の保全（p30）

【評価できる点】

- ・環境騒音に関して、基準達成率 100%となっている点。
- ・ペットが増加していくなか、ペットの適正管理に関する市民のマナーの向上を推進している。
- ・散歩マナーについての普及啓発をおこない、意識の向上をはかった。
- ・飼育マナー啓発により、特に海岸部など、大切に飼っているということが感じられる。
- ・住宅地域での、飲食店等のネオンなどを規制すること。

【今後検討すべき課題】

- ・飼育マナーの向上については、市民からの関心も高いと思われるが、有効な指標が整備されていない。説明の中に何らかの数値が盛り込まれているとよいのではないかな。
- ・北部は、道路にフンをしてもそのままにされる方も見受けられ、さらなる啓発活動が必要と感じる。
- ・飼い主は増加傾向にあり、効果的な周知啓発を勧めていくことが今後の課題。
- ・継続して普及啓発をおこない意識の向上をはかってほしい。
- ・駅周辺などの地域で、ともするといかがわしいネオンなどが設置されないように努める。

施策⑩まちの美化の推進（p32）

【評価できる点】

- ・地域主体の清掃活動の推進を継続的に図った点。
- ・自治会などで、定期的に清掃作業を実施している。
- ・美化クリーンキャンペーンの実施について、とても良い取り組みと感じる。
- ・茅ヶ崎市の観光スポットである海岸の一斉清掃等を実施している。
- ・市民参加型の美化キャンペーンを実施すること、地域清掃ボランティア清掃への支援としてゴミ袋や掃除用品、マイクロプラスチック採種道具の貸し出等が実施されている。
- ・マイクロプラスチックの採取用具や清掃物品の貸出しを行った。

【今後検討すべき課題】

- ・環境美化活動の参加者数の落ち込みを回復させるための方策の検討が必要である。
- ・環境美化活動への参加をすることで、町の美化意識が深まると思われるので、今後どのように参加者を増やしていくかを考えることが課題。
- ・徒歩で移動するようになると道路やフェンス、草むらにお菓子の袋、空き缶などを多く見かける。子ども達の通学路、公園、道の生垣、草むら、北部地域など、海岸だけでなく他の地域でも行えたらいいと思う。ただ、茅ヶ崎は道が狭く、自転車や車の通行も多い中行うとなると安全の確保も必要となるので、難しいのが現状だと思う。他県の取り組みだが、地域の大人達が、定期的に集まって、ごみ拾いや草刈りなどを行っていた。自治会加入率が高い地域であったので、できた取り組みだと思うが、地域の実情にあわせて行う必要がある。茅ヶ崎は、人口は24万5千人を超え緩やかに増加傾向にはありますが、少子高齢化も進行しており、持続可能なまちづくりと地域コミュニティの活性化が喫緊の課題と思われれます。
- ・引き続き、継続に向けて努めること。行政の協力も継続する。
- ・引き続き、継続に向けて努めること。行政の協力も継続する。
- ・継続して貸出しを実施し、普及啓発をおこなってほしい。

施策⑪良好な景観形成の推進（p34）

【評価できる点】

- ・ちがさき景観資源を1件、追加指定した点。
- ・えぼし岩をちがさき景観資源として、追加指定した。
- ・事業者との事前相談・協議を行い、屋外広告物などについて基準に適合したものの設置を推進している点。
- ・屋外広告物や公共サインの点検を行い、必要に応じて、改善を指導及び実施した。
- ・景観まちづくりアドバイザーの派遣を行った。
- ・緑豊かな茅ヶ崎のまちを継続していること。

【今後検討すべき課題】

- ・是正に時間を要する違反物件について、粘り強く対応していくことが必要である。
- ・継続して屋外広告物や公共サインの点検を行い改善につなげてほしい。
- ・公共サインの安全点検や落書きシールの除去などを行い適切な管理にとされているが、定期的な点検できる人員確保が課題。
- ・具体的に景観まちづくりアドバイザーはどのような事をやっているのか説明があるといいと思う。
- ・継続すること。

政策目標3 資源を大切に作る循環型のまち

施策⑫4R の推進（p38）

【評価できる点】

- ・資源ごみの分別や環境ラベル商品の購入などにおいて、市民の協力を広く得られている点。
- ・家庭系ごみの排出量が目標値を大きく下回っている点。
- ・「製品プラスチック」分別回収体制を構築した。
- ・ごみを出さないための行動、ごみの減量化に対する諸制度を導入検討することが市民、事業者には知らされていることを評価します。

【今後検討すべき課題】

- ・「製品プラスチック」の分別導入にあたり、市民への丁寧な周知が求められる。
- ・「製品プラスチック」分別回収を推進し、ごみ排出量の削減につなげてほしい。
- ・フードドライブを行っているところは多々あるので、PR が必要。
- ・指定のごみ分別方法は、一回覚えてしまえば適切に分別できます。一方で、紙ベースの分別一覧に載っていないものは「ごみサク」を利用しています。しかし、高齢者などスマホを利用していない方には「ごみサク」の活用が難しいため、周知方法に工夫が必要だと感じます。特に高齢化率の高い自治会さんには、スマホの使い方を含めた出前授業又は完全な紙ベースのものを別に(辞典のような感じで)配布などあっても良いのではないかと思います。
- ・事業系ごみの減量に向け効果的な対策を講じる必要がある。
- ・市民へのさらなる周知と、事業系ごみの減量を強化していくことが課題。

施策⑬ごみの排出抑制と受益者負担の適正化（p40）

【評価できる点】

- ・家庭系ごみの有料化(ごみ袋の有料化)について、適切に進行管理がなされている点。
- ・指定ごみ袋の導入により、ごみの排出量は大幅に減ったのではないかと思います。
- ・家庭ごみ有料化により、ごみの減量はすすんでいる。
- ・生ごみ処理機等の普及の推進をした。
- ・ごみ有料化がスタートし、ごみ出しのルールが定着している。
- ・今年度もごみ分別冊子の内容が見直されており、分かりやすくなっていた。また、茅ヶ崎市市民便利帳(やさしいにほんご)の冊子が発行され、QR コードもついていたり、ごみの分別について詳しく説明されていたりして良かった。市民課にあり、転入時に案内しているとのことだった。

【今後検討すべき課題】

- ・茅ヶ崎も 2013 年以降、外国人居住者が増加傾向にあります。アジア圏が中心で、中国、ベトナム、韓国、フィリピン、インドネシアなど様々な地域の方が暮らしています。生活環境や考え方が違うので、近所でのトラブルとなってしまうこともあります。一度茅ヶ崎でもごみ分別の英語版(紙ベースのもの)をつくったけれどもやめてしまったと聞いた。配付がない限り、どこに取りに行ってもいいかも分からないようである。今、転入される方はおそらく若い方が多いのかと感じますが、スマホの利用が多いので「ごみサク」の英語版もあれば

より分かりやすいと思います。できれば多言語に増やせればベストだが、まずは英語版からいかがか。なお、アプリで変換されている方もいる。ごみカレンダーの漢字にふりがなを付けてみてはどうかと思う。

- ・自治会等を対象とした学習会が行われているが、自治会に加入していない市民も多いので、さらなる状況のお知らせに工夫が必要。
- ・生ごみ処理機の購入補助について、実績値の記載があるとよいのではないか。
- ・生ごみ処理機等の普及を推進し、ごみ排出量の削減につなげてほしい。
- ・現状を維持すること。

施策⑭適正な収集・運搬の実施（p42）

【評価できる点】

- ・戸別収集について、実験事業の実施など、段階を踏まえて進めようとしている点。
- ・戸別収集の範囲を広げ、共同住宅によるステーション単独設置等、さまざまな形で検証されている。
- ・甘沼地区で、住宅の増加に伴い、資源物の集積場所を燃えるごみ等の集積場所と同じ箇所にしていただいた。
- ・不法投棄について関係機関と連携・情報交換及びパトロールを実施した。
- ・現行よく守られていると思う。

【今後検討すべき課題】

- ・戸別収集の実験事業の結果について、しっかりと分析することが重要である。
 - ・不法投棄の多い地域については、住民との協議をふまえて対応していく必要がある。
 - ・不法投棄される箇所は、道路ぞいの人通りの少ない箇所であったりするが、集積場所ではない側道に引越しごみと思われるプラの衣装ケース等が捨てられていたり、集積場所に冷蔵庫、ダブルのベッドマットが捨ててあったりと、びっくりする。監視カメラ設置(本物)や昼夜のパトロールも検討課題と思う。
 - ・不法投棄は地域特性があり、パトロールにも限界が見えているので、監視カメラの設置や移動を行うための資金確保が課題。
 - ・継続して関係機関との連携及びパトロールを実施し、改善につなげてほしい。
- 継続すること。

施策⑮適正な処理・処分の実施（p44）

【評価できる点】

- ・焼却量や最終処分量が目標値を達成している点。
- ・各設備の保守点検が予定通り実施されたことまた、情報提供がされたこと。
- ・新粗大ごみ処理施設整備が行われ、さらにアルミが分別できるようになり、資源化でき、市のごみの財源となる。
- ・環境事業センターやリサイクルセンターの施設見学により普及啓発をはかった。

【今後検討すべき課題】

- ・新粗大ごみ処理施設について、もう少し情報の記載があってもよいのではないか。
- ・処理施設の見学はとても有意義であったが、募集定員の枠が少なく、せっかくの機会なのでもっと多くても良かったのではないかなと思う。稼働後も、見学できる場所はかぎられるが、見学ツアーなど定期的に行ってはどうかと思う。色々な危険を伴いながら作業されている現場をみると、適正に分別しようという気持ちも高まるのではないかなと感じる。
- ・焼却残渣の再資源化量が、目標値を下回っている。
- ・今後も増えていくと思われる、ごみの処理残渣の資源化の取り組みを継続課題していくことが必要。
- ・継続して普及啓発をおこない、ごみ問題意識の向上をはかってほしい。
- ・現在、処理方法がわからないので透明性を高める。

目標5 環境に配慮した行動を実践するまち

施策②①学校における環境教育の充実（p62）

【評価できる点】

- ・出前授業等の実施件数が伸びている点。
- ・市職員によるエコスクール（出前授業）は良い取り組みとされます。引き続き実施してほしい。
- ・実際の作業を見てもらう出前講座により普及啓発をはかった。
- ・環境に関する学校教育は実施され、出前授業の実施、副読本・教員向けの情報提供が行われている。

【今後検討すべき課題】

- ・「ちがさきエコスクール」へのアクセス数が伸び悩んでいる点。このサイトは学校教員への教材や情報の提供を目的としているので、教員からの意見を聞くなどして改善するとよいのではないかな。
- ・ちがさきエコスクールとちがさきエコネットは同じところに載せるようにしたら、閲覧数が増えるのではないかな。
- ・各学校が環境学習の取り組みを行ってはいるものの、オンライン教材の充実を増やし、効率的な学習が行われることも必要。
- ・継続して出前講座をおこない、普及啓発をはかってほしい。
- ・教育内容が見えない。
- ・5年生ぐらいから、環境学習を取り入れたらよいと思う。

施策②②地域における環境学習機会の拡充（p64）

【評価できる点】

- ・市民に対する環境学習機会の提供を継続的に拡大していこうとしている点。
- ・市民が興味を持つ講座、見学会、観察会が実施されている。
- ・生涯学習ガイドブックに載っていた。
- ・マイクロプラスチックの採取用具や清掃物品の貸出しを行った。

【今後検討すべき課題】

- ・ちがさきエコネットの「SDGs キッズクイズ」は子どもを対象としたものであるが、サイトの中身から考えて、子どもだけでたどり着くことはないと思われる。学校の先生などにも情報提供する必要があるが、大人向けのサイトの中に子ども向けのものが混ざってしまっている。子ども向けの専用サイトがあってもよいのではないか。
- ・市民参加がしやすい方法と、ちがさきエコネットの PR 法も検討してほしい。
- ・継続して貸出しを実施し、普及啓発をおこなってほしい。
- ・資料編 11 ページからの「市民などを対象とした環境に関する事業」について、しめ縄づくりは香川公民館でも行われていたが、掲載されていなかった。
- ・ごみ袋の有料化などの取組の際は、学習会も開催されたが、何かないと、行政も地域に出てこない。
- ・定期的に地域で学習会を開催する計画。

施策⑳庁内の環境意識の向上（p66）

【評価できる点】

- ・市職員の環境意識が高い水準にある点。
- ・茅ヶ崎市環境マネジメントシステム（C-EMS）が継続的に適切に運用されている点。
- ・職員がマイボトルを持参し、本庁舎入口の給水を利用しているところを良く見かける。
- ・トイレの自動消灯など使わない電気を消している様子が見られる。
- ・市長自ら、公用車なるべく利用せず、徒歩で通勤されているところを見かける。
- ・市民の方から意見があり感心する。
- ・庁内の環境意識は維持されている。
- ・各種研修会や関係機関へ職員派遣をはかった。

【今後検討すべき課題】

- ・すでに全体的に高い水準にあるので、これを維持しつつ、さらに踏み込んだ改善をするための方法の検討をどう進めるのか。
- ・「エネルギーの見える化」により意識は高まるので、継続性が必要。
- ・環境政策課内での情報共有はなされているものの、より活発に他の課との共有を図るようになるとより良いと感じる。
- ・継続して研修等を行い、庁内の環境意識の向上につなげてほしい。
- ・今後、定期的に地域との意見交換等を実施すること。

施策㉑環境に配慮した活動への支援（p68）

【評価できる点】

- ・環境に関する講演会等への支援や、環境測定機器の貸出しなど、市民活動を支援するための取り組みを展開している点。
- ・環境に関する広報や支援が行われ、情報発信がされている。

- ・ちがさき環境フェアでのパネル展示やワークショップは良かったと思う。
- ・事業者向けの情報提供を行っている点。
- ・事業者向けの環境に関する情報提供を実施した。

【今後検討すべき課題】

- ・測定器の貸出しがあることを知らない方が多いと思う。みなさんに知っていただくような発信ができれば良いと思う。
- ・事業者向けの脱炭素ステップアップワークショップなどについて、事業者からの意見も聞き、内容の改善やその後の取り組みの進捗の確認をするとよいのではないか。
- ・継続して情報提供を行い、事業者の環境意識の向上につなげてほしい。
- ・環境学習や環境保全活動の推進役の育成がどのように進められているのか計画を立てることも必要。

施策⑮環境に関する情報の発信（p70）

【評価できる点】

- ・様々な媒体を通じて、積極的な情報発信を続けている点。
- ・各媒体を活用した情報発信がされている。
- ・LINEセグメント配信による情報発信をおこなった。
- ・環境フェアを毎年開催することで、環境意識の向上につなげている。
- ・ちがさき環境フェアに初めて参加したが、海洋ごみ学習カードゲームはとても楽しく学べて良かった。他のコーナーも人気でおもしろそうなものが沢山あった。来場者も非常に多く楽しめた。

【今後検討すべき課題】

- ・年齢層によって利用している媒体が異なるので、若年層に周知したいものについては Instagram（インスタグラム）を多用するなどの工夫が必要である。
- ・今後もニーズに応じた情報発信をおこない、効率よい普及啓発をおこなってほしい。
- ・環境フェアのスタンプラリーは、本庁舎の奥の方の展示を見てもらえるように場所の検討は行った方が良いと思う。展示ブースは対応スタッフがいるブースとないブースがあって少し残念である。他の参加コーナーは参加枠が少ないものがあり、もっと増やしても良いと思う。今回は国勢調査とかぶっていたので難しかったと思う。
- ・様々な媒体の閲覧数の伸び、各イベントの効果を促進するための新たな手法が必要。
- ・ブラごみの分部収集
- ・春と秋に環境週間を設け、町内清掃を市として取組(問題提起)したらいかが。